

## 関西部会 2024 年度部会研究会

### -----4 月部会研究会-----

【日時】 2024 年 4 月 20 日 (土) 13:30~17:00

※13:00~13:30 部会理事・幹事による役員会を開催

【会場】 大阪公立大学文化交流センター ホール (大阪駅前第 2 ビル 6 階)

#### 【報告者および報告論題】

・日本広告学会関西部会との合同開催

13:30~13:35 本例会の趣旨

#### 【日本商業学会関西部会セッション】

13:35~14:35 (報告 45 分、質疑 15 分)

報告(1)「ユーザー発案者効果 —ユーザー共創型製品がもたらすマーケティング成果—」

岡田庄生 氏 (法政大学大学院・博報堂)

14:35~14:45 (休憩)

#### 【日本広告学会関西部会セッション】

14:45~15:45 (報告 45 分、質疑 15 分)

報告(2)「模倣商品としての PB と NB 商品の比較に関する実験的研究」

岡山武史 氏 (近畿大学)、林英夫 氏 (医療法人豊明会)

15:50~16:50 (報告 45 分、質疑 15 分)

報告(3)「ヒト・モノそしてココロを動かす商学—交通論と広告論の接点を探る—」

高橋愛典 氏 (ゲスト・近畿大学)

### -----6 月部会研究会-----

【日時】 2024 年 6 月 15 日(土) 13:30~17:00

【会場】 大阪公立大学文化交流センター ホール(大阪駅前第 2 ビル 6 階)

#### 【報告者および報告論題】

・コーディネーター・セッション

テーマ名: 「デザインマネジメント」

テーマの趣旨:

現在のデザインマネジメント研究が直面する重要な課題のひとつは、その対象とするデザイン実践の拡大と、それに伴う研究の範囲の複雑化である。従来の技術的で製品中心のアプローチから、より人間中心主義的な視点や大規模な社会システムの変化に焦点を移すことで、近年のデザインマネジメント研究は新たな領域に進出している。

この拡大するデザイン実践を研究の対象として捉える際に、デザイン学の伝統的なアプロ

ーチや科学的手法だけでは十分でない。これまでデザイン学が「デザイン学の不在」を謳い、デザイン独自の知が科学化の不可能性にあることを前提にしながらも、デザイン学独自の知を探究してきたように、デザインマネジメント研究にも独自の方法論やアプローチの検討が必要となる。

デザインマネジメント研究が、これまでも商業学に関わる中心的な諸課題と密接に関連してきたことを鑑み、ここではデザインマネジメント研究における今日的課題を共有することで、商業学研究領域から得られる示唆について議論を深めたい。

13:30～13:35(5分)

解題

牧野耀 氏(金沢星稜大学)

13:35～14:00 (25分)

報告(1) 「デザインマネジメント研究の潮流と方法論的課題」

報告者:八重樫文 氏(立命館大学)

14:00～14:15 (15分) 質疑応答

(休憩 5分)

14:20～14:50 (30分)

報告(2) 「スマートスピーカーの受容における楽しさに関する経験視点からの分析」

報告者:牧野耀 氏(金沢星稜大学)

14:50～15:05 (15分) 質疑応答

(休憩 10分)

15:15～15:45 (30分)

報告(3) 「デザイン文化醸成を促すメカニズムの探求：ポジティブアプローチからの考察」

報告者:磯邊美香 氏(立命館大学大学院)

15:45～16:00 (15分) 質疑応答

(休憩 10分)

16:10～16:50 (40分)

パネルディスカッションと質疑応答

16:50～17:00

事務連絡など

-----7月部会研究会-----

【日時】 2024年7月20日(土) 13:30~16:20

【会場】 大阪公立大学文化交流センター ホール(大阪駅前第2ビル6階)

【報告者および報告論題】

コーディネーター・セッション

テーマ名: 「ツーリズム研究から期待される示唆」

テーマの趣旨:

ポストコロナの日本において、外国との金利差やデジタル赤字、新NISAに伴う国外証券投資から円安が進み、国内でも物価高が進行してきている。こうしたなか、外貨獲得の手段としてインバウンド・ビジネスへの期待は年々大きくなってきている。こうしたなか、旅マエ、旅ナカ、旅アトを包括的にとらえ、訪日によって芽生えた対日アフィニティにより、帰国後も輸出が促進されるインバウンド・アウトバウンド・ループ(池上・早稲田大学インバウンド・ビジネス戦略研究会, 2021)という好循環がにわかに注目されてきている。訪日は日本という「商品」を五感で体験してもらう最高の機会であり、その中核を担うのがツーリズムであるといえる(寺崎, 2024)。本セッションでは、わが国のツーリズム研究をリードする研究者と消費者行動の立場からツーリズムの研究を進める研究者を招き、その最先端の研究を報告していただくとともに、コーディネーターを交えたパネルディスカッションにより議論を深めていく。

13:30~13:35(5分)

解題

寺崎新一郎(立命館大学)

13:35~14:15(40分)

報告(1) 「未来を見据えた観光研究 — マーケティングの視点から」

報告者:佐野楓(和歌山大学)

14:15~14:35(20分) 質疑応答

(休憩5分)

14:40~15:10(30分)

報告(2) 「カスタマー・インスピレーションの先行要因に関する研究:観光地の動画コンテンツを刺激として」

報告者:田中祥司(摂南大学)・高橋広行(同志社大学)

15:10~15:30(20分) 質疑応答

(休憩10分)

15:40~16:10(30分)

パネルディスカッション及び質疑応答

パネリスト：佐野楓(和歌山大学)，田中祥司(摂南大学)，寺崎新一郎(立命館大学)  
コーディネーター：寺崎新一郎(立命館大学)

16:10～16:20 (10 分)

閉会・事務局連絡

-----9 月部会研究会(九州部会と合同開催)-----

【日時】2024 年 9 月 14 日 (土) 13:00～16:30

【会場】福岡大学 2 号館 221 教室

※Zoom でのハイブリッド開催

【報告者および報告論題】(※報告 30 分・質疑 15 分)

第 1 報告 13:00～13:45

吉川祐介氏 (神戸女子大学)・松田温郎氏 (西南学院大学)

「地域企業のエフェクチュエーションを可能にするコンサルティングのアクションリサーチ」

第 2 報告 13:50～14:35

細井謙一氏 (広島経済大学)

「広島お好み焼き産業におけるビジネスエコシステムと市場形成」

休憩 14:35～14:50

第 3 報告 14:50～15:35

明神実枝氏 (福岡大学)

「地域ブランド形成過程についての一考察」

第 4 報告 15:40～16:25

日高優一郎氏 (立命館大学)

「ワインツーリズムにおける産地イメージの変容 —立ち上げ期以降の追加調査にもとづく報告—」

-----11 月部会研究会-----

【日時】2024 年 11 月 16 日(土) 13:30～16:50

※13:00～13:30 に部会理事・幹事による役員会を開催します。

役員の方は 13:00 にお越し下さい。

【会場】大阪公立大学文化交流センター ホール(大阪駅前第 2 ビル 6 階)

**【報告者および報告論題】**

■ 院生セッション

13:30-14:05

伊藤佳代氏（甲南大学大学院）

「インターナショナルブランディングと価値共創：ベンチャーの2類型比較」

■ コーディネーター・セッション

テーマ名：「みんなで考えよう！ ケース・スタディの方法」

14:05-14:10

開題 近藤公彦氏（小樽商科大学）

14:10-14:55

第1報告 近藤公彦氏（小樽商科大学）

論題：「ケース・スタディで迷子にならないために－Yin(2018)のケース・スタディ・マップ」

14:55-15:05

休憩

15:05-15:35

第2報告 水野 学氏（日本大学）

論題：「ケース・スタディの迷宮－Yin のマップを持って迷った研究者の物語」

15:35-16:05

第3報告 吉田満梨氏（神戸大学）

論題：「ケース・スタディの五里霧中－マップを手はどう前に進むか」

16:10-16:45

ディスカッション

16:45-16:50

事務連絡など